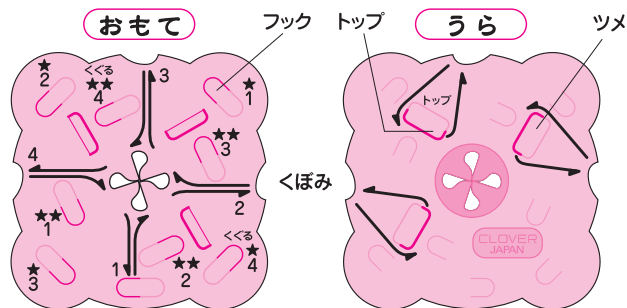


アジア 結美 むすび

菊結び

延命長寿を願うおめでたい結びで、菊花結びともいわれます。飾り結びの代表的なもののひとつで、祇園祭の飾りにも使われています。



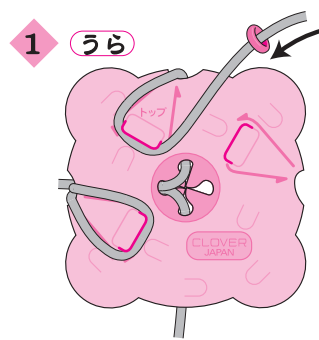
カードの色は緑です

<はじめに>

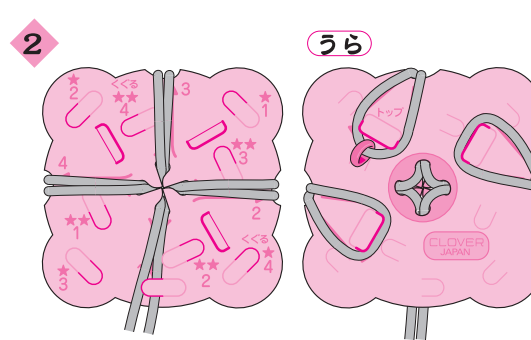
- 1→2→3→4と、カードの数字の順番にヒモをかけていきます。
- 1のフックにかかったヒモを★1のフックに移動させます。(2、3、4も同じ)
- ★1にかかったヒモを★1のフックに移動させます。(★2、★3、★4も同じ)

応用編

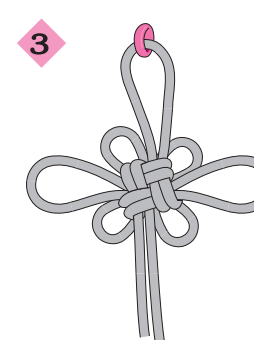
…ビーズや金具を通しておいて結ぶ



ヒモをかけてゆく途中、「トップ」と書かれた裏面のツメに付ける時にビーズやストラップパーツなどを通します。



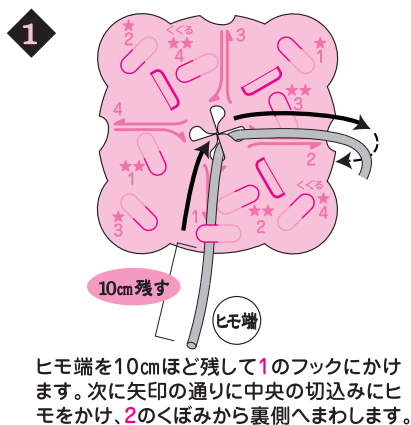
ヒモをかけ終えたところ。このあと、「基本の手順」で菊結びをします。



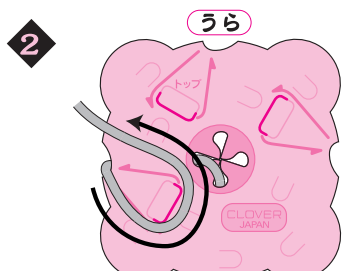
結びあがり。上の輪にパーツが通っています。

基本の手順

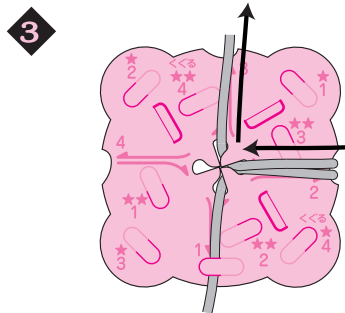
用意するもの… 太さ1~2.5mmくらいのヒモ(65cm程度)・接着剤(透明に仕上がるタイプ)



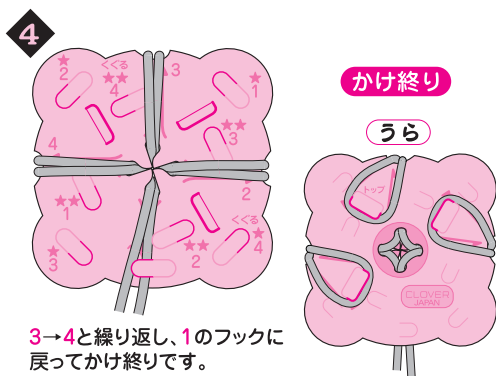
ヒモ端を10cmほど残して1のフックにかけます。次に矢印の通りに中央の切込みにヒモをかけ、2のくぼみから裏側へまわします。



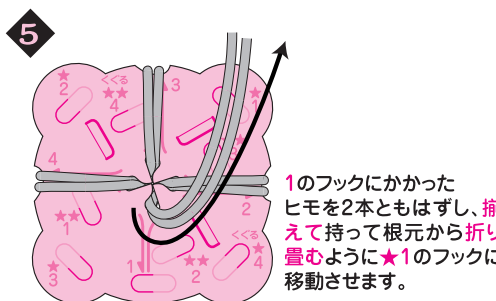
裏側にまわしたヒモを、矢印の通りにツメにかけて、表側に引き返します。



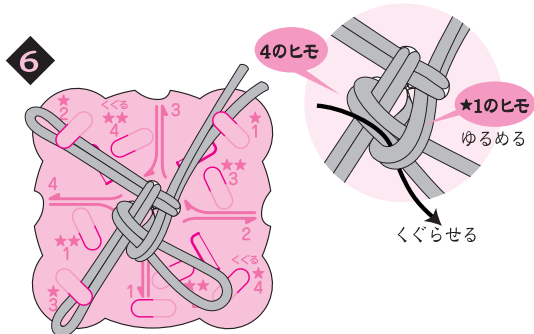
再び中央の切込みにヒモをかけます。



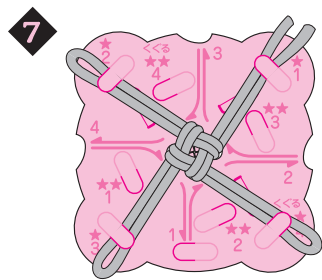
3→4と繰り返して、1のフックに戻ってかけ終りです。



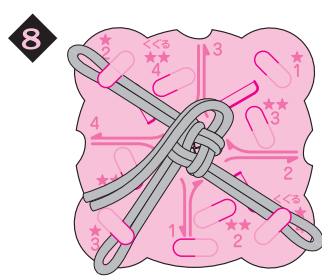
1のフックにかかったヒモを2本ともはずし、揃えて持って根元から折り畳むように★1のフックに移動させます。



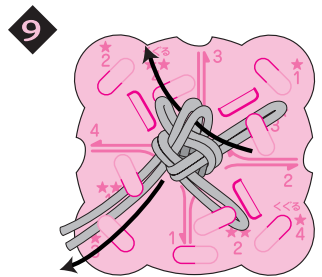
2を★2へ、3を★3へ同じように移動させます。4を移動させるときは★1のヒモの根元をゆるめて下をくぐらせて★4のフックにかけます。



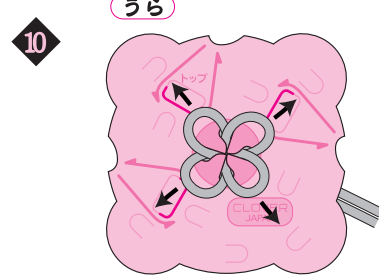
★4まで移動させたところ。結び目は引き締めないで、ふんわりとさせておきます。



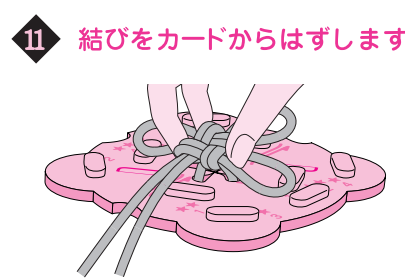
続いて★1のヒモを★1のフックに移動させます。★2を★2へ、★3も★3へ同じように移動させます。



★4を移動させるときは★1のヒモの根元をゆるめて下をくぐらせて★4のフックにかけます。



カードを裏返し、中央の切込みにかけたヒモを少しずつ引きだして、形を整えます。



透明に仕上がる接着剤を使って、結び目の中を目立たないところで固定して完成です。(糸でかかってもよい)

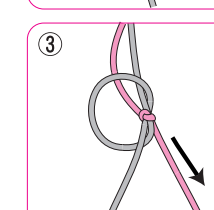
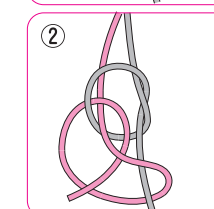
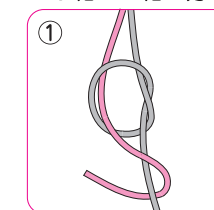
作品例

…携帯ストラップを作ってみましょう

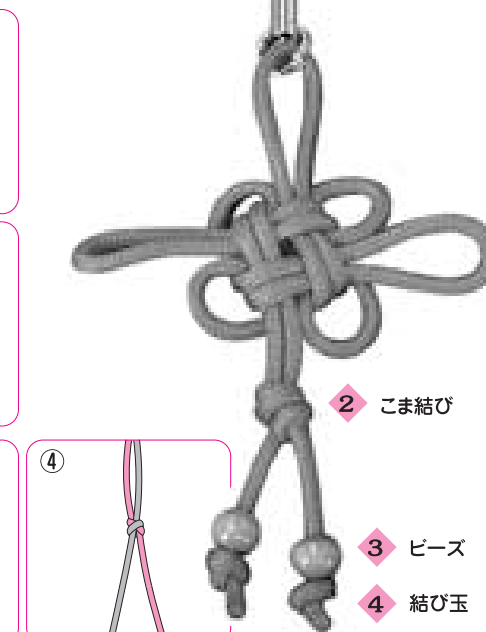
用意するもの… ヒモ75cm・ストラップパーツ・ウッドビーズ2個

- 「応用編」の手順でストラップパーツをトップ位置に通した菊結びを作ります。最初1のフックに付ける時、15cmくらいヒモ端を残してかけます。
- 図の位置で「こま結び」を作ります。

こま結びの結び方



結び目を作りたい位置で②でできた輪を先に右下方向に引き締めます。



③の上に斜めに渡るよう、もう一方を引き締めます。×形の結び目ができます。

- ウッドビーズを通します。
- ヒモ端を結んで完成です。

使用上の注意

- 商品の機能上 柔らかい樹脂でできています。ヒモによる摩擦や爪などもキズが付きやすいので、取り扱いに注意して下さい。
- ストーブの周りや車内など、高温になるところや直接日光の当たる所に放置しないで下さい。変形の原因になります。

<おためしヒモについて>

- 水ぬれや光により色落ちする場合があります。直射日光を避け、湿気の少ない所に保管して下さい。
- 水ぬれや摩擦により、紐の堅さやツヤなどの特長が、損なわれることがあります。
- 衣服などに接する場合、汗や水ぬれなどにより色移りすることがあります。充分にご注意下さい。